

# 第 39 号

発行 世田谷区町会総連合会  
世田谷区若林 4-31-9  
ポライト第2ビル202  
☎・FAX 5481-3456

発行人 会長代行 斎藤 重男  
編集 情報誌編集委員会  
編集委員長 堀池 有

# せたがや 町総連だより

## 「せたがや生涯現役ネットワーク」への参画

定年退職などをきっかけに「これからは地域にもっと関わって生きていこう」と思い立ったとしても、地域にはいったいどのような活動があるのか、どのようにして自分にあつた活動を探せばいいのか、戸惑われている方も少なくないと思います。

一方、地域の活動団体や事業者などは、そのような中高年齢者の方々との出会いを求めている、なかなかその機会がありません。地域の活動団体や事業者と、地域に戻ら

れる中高年世代の方々がスムーズに結びつくことができれば、皆さんの持つ知識や経験、技能などが地域づくりに大いに発揮され、誰もが生涯現役で暮らしていくことができる社会作りが進んでいくのではないのでしょうか。

そこで、わたしたち地域活動団体・事業者・大学・行政等は、「生涯現役」を共通テーマに、中高年世代の皆さんの地域活動への参加を進めていくネットワーク組織を平成十九年五月に立ち上げました。それが「せたがや生涯現役ネットワーク」です。


「せたがや生涯現役ネットワーク」では、今後も地域に関わる意欲ある方が地域活動に参加・参画する機会を創っていくとともに、中高年齢者の経験・知識・熱意を活かした「支えあいの地域社会づくり」をめざして、様々な事業



町総連PRコーナー

を展開しています。世田谷区町会総連合会として、区民の生活の向上と福祉の増進に寄与するという目的のため、様々な事業に取り組んでいます。支えあいの地域社会づくりを世田谷区が事業として推進している「せたがや生涯現役ネットワーク」を世田谷区町会総連合会としてもその趣旨に賛同し、各会議や打ち合わせに委員を送り込んでいきます。地区や地域が活性することによって、潤いのあるまちづくりに向けて世田谷区町会総連合会は協力をしているところです。

### 目 次

「せたがや生涯現役ネットワーク」への参画	1	町総連ニュース	8
地域情報		編集後記	8
鳥山地域	地域コミュニティの強い絆を目指す	世田谷区町会総連合会のホームページ	
世田谷地域	わが町の紹介	<input type="text" value="世田谷区町会"/> <input type="button" value="検索"/>	
北沢地域	地域と共に歩む山下自治会	※QRコード	
玉川地域	「ゾーン30」の導入について		バーコードの一種で、携帯電話で撮影して、簡単にホームページを見ることができます。
砧地域	成城自治会の災害対策活動		



地域活動紹介相談コーナー

烏山地域

地域情報

# 地域コミュニティの強い絆を目指す

烏山上町会 会長 杉田 武信

烏山上町会は、世田谷区の北西部に位置し、南烏山四丁目く六丁目、北烏山五丁目く九丁目に亘る区域であります。

当町会区域の北部には中央高速道路、中央部には国道二〇号甲州街道、そして南部には京王電鉄京王線がそれぞれ東西方向に走っている。又地形については、全地域に亘り概ね平坦な地形となっており、北部は三鷹市と杉並区に接しています。

古くから地元の烏山上町の地域に居住する人達は、「地元」の地名の呼び方を「烏山上宿」との言い方をします。この呼び方の原点は、京の都である京都御所から江戸に向って、甲州街道に沿って給田、烏山上宿、烏山中宿、烏山下宿の順で各地元の地名を昔から呼んでいたからであります。

烏山上町会の成立過程について以前、烏山上町会の元

会長に尋ねたところ、以前は「烏山上宿防火防犯組合」と称していたとの事です。

その後、昭和二十九年頃に「烏山上町会」として、体制を整え新たに発足したとの事です。

今から六〇年前の烏山上町の地域一帯は、野菜畑等を中心とした田園地帯でありました。その後、日本の経済成長が高まった昭和三〇年以降、急激な都市化に伴い、現在では一般個人住宅及び大規模な集合住宅の外、日本女子体育大学、昭和大学烏山病院、都



防災訓練

立世田谷泉高校、世田谷区烏山総合支所、烏山区民センター等があります。

京王線の烏山駅を中心として烏山駅前商店街を始め大型スーパー、一般店舗等が広域に亘って展開しています。

烏山の住宅地域に於いては、三年前前にテレビ朝日で放映された「住むのならここ」、の番組に於いて烏山地区が第一位に評価されたことがあります。この事は烏山の区域が烏山駅を中心として、大型スーパー、一般店舗が数多く有る事から買い物がしやすい事、又、医療施設等が充実している事が理由と考えられます。

烏山上町会の地区内には、現在住民基本台帳では九千世帯が登録されていますが、烏山上町会の会員数は一八五二世帯であり、町会への加入率は二〇%に留まっており、町会員の増加が見込めないのが現状となっております。



防災訓練

烏山上町会は、毎月五〇名の役員が烏山神社上宿氏子集会所に於いて、上町定例役員会を実施しております。定例役員会では回覧物等の配付、出張所からの依頼連絡事項等の周知を行っております。

次に烏山上町会が行っている主な活動内容について紹介致します。

一、烏山上町会地区内にはオウム真理教の施設が有る事から、オウム対策住民協議会が組織されており、このオウム対策では、オウム監視詰所の当番、オウム反対署名活動、抗議デモ、学習会等への参加協力を行っております。

二、烏山出張所管内に所属している二十三町会、自治会による烏山地区防災訓練を烏山中学校の校庭に於きまして毎年実施しております。

三、青少年烏山地区委員会に於いては、「中学生の集い」、「少年野球大会」等への協力をしております。

四、身近なまちづくり推進協議会、ごみ減量リサイクル推進委員会の活動では、春と秋に実施する「健歩会」、「健康講座」、「古布回収事業」、「ごみ処理施設見学会」等の参加、協力を行っております。

五、烏山地区社会福祉協議会、日本赤十字社が行っている各種事業への協力をしております。

六、五年毎に実施される国勢調査ですが、烏山上町会に於いては調査区域が広いことから、多数の調査員の選任に当っては、町会役員の大なる協力を得て執行しております。

七、上町会での主な活動の内でも最も重要な活動が、災害時に於ける避難所の運営です。当町会は烏山中学校の協力を得て、避難所運営訓練を行っております。

今後は現在協議中である都立世田谷泉高校の避難所運営に対しても、当町会が

世田谷地域

# わが町の紹介

太子堂四丁目西山町会 会長 堀江鉄 拡

担当する事になっております。次に当町会独自の活動について紹介します。

上町会では町会員を対象として、秋の日帰りバス旅行を毎年実施しており、昨年は「三保の松原」に行つて参りました。以前は春の潮干狩旅行を行つておりましたが、東日本大震災以降は津波の危険から、現在は秋の旅行のみを

実施しております。

九月二十三日～二十四日には地元の烏山神社の例大祭が行われますので、烏山区民センター広場での「烏山上町神酒所」の手伝いとして参加しております。

十月の敬老行事として、七十五歳以上会員の方々に対して、敬老品の贈呈を行つております。その他の活動としては、十二

月二十八日から行われる消防団の歳末警戒に当たり、烏山上町会役員による地区内の防火防犯パトロール活動を行っております。

年度末の行事として毎年三月下旬に烏山上町会役員による、宿泊研修会を以前から実施しており、今年も河口湖に行き研修を行いました。現在烏山上町会の区域に於いて、三件の都市計画事業

が認可され展開されております。

一件目の事業が東京外郭環状道路です。二件目の事業が京王線の連続立体化事業です。そして三件目の事業が、都市計画道路二一六号線と駅前広場の事業です。この三件の事業では、上町会の会員が地権者となる部分がある事から、今後十年以上に亘り多方面での対応が求められる事が

予想されます。最後に烏山上町会では、役員の高齢化が懸案となっております。役員の高齢化は災害時の避難所運営に当たり、今後大きな支障となる事が考えられます。この問題は他の町会自治会に於いても共通の懸案事項と思っておりますので、今後、区と共に改善策を模索しなければならぬと強く思慮しております。

太子堂四丁目西山町会（以後西山町会という）は、世田谷区の東に位置し、渋谷区や目黒区にもさほど遠くはありません。田園都市線三軒茶屋の北側に位置し、三軒茶屋交差点より世田谷通りを環七に向かい右側に位置します。世田谷で一番高い？キャロットタワーは、私どもの町内になります。

太子堂三丁目は、現在は本町会。昔は本村と呼ばれていました。太子堂三丁目の圓泉寺（真言宗豊山派）辺りが村の中心地だったようです。

そして、西山町会は、圓泉寺辺りより、西南の方角を眺めると、その方角が小高い山に連なつて見えたことから、西の山が西山になったと子供頃には土地の古老から聞いた事があります。その西の小高い連なりは、神奈川県大山に続く大山街道、現在の世田谷通りです。

また、一つの由来、太子堂の町名は、昔、聖徳太子の像を背負つて、全国を旅して歩いてきた旅の僧侶が圓泉寺の付近を通り掛かったおり、一



聖徳太子

時の睡魔に襲われ仮眠を取つたそうです。その時、夢枕に聖徳太子が現れ、この地に安住したいとお告げがあり、村人の協力を得てお堂を建立し、丁重にお祀りしたのが聖徳太子堂でそれが町名の始まりだそうです。現在もお堂は、圓泉寺の境内にあります。これらは、太子堂三丁目からの歴史ですが、西山町会には太子堂で二軒あるお寺、一つが、前出の圓泉寺で、もう一つの教学院をご紹介いたします。教学院は、天台宗のお寺で一三〇〇年代から続く（一説には一六〇四年）お寺と聞いております。境内には、江戸五色不動の一つ、目

り不動で通称目青不動さんと親しみを込めて呼ばれ、目黒区の目黒不動、目白の目白不動、文京区の目赤不動、台東区の目黄不動と五色有る目の内の一つのお不動様だそうです。目が青い訳ではなく、江戸城の鎮護の為に東西南北、



北沢地域

地域と共に歩む山下自治会

豪徳寺一丁目山下自治会 会長 男鹿 澄

中央を色で示し、そこにお護りのお不動様を造立したとの事です。
教学院は歴史的にも古く以前は、青山の方に在ったようですが、明治期に現在の地に越してこられたとの事です。
檀家さんも著名人が多く、その昔小田原城が豊臣秀吉に攻め滅ぼされた後、北条氏に代わり城主となった歴代の藩主、大久保家の菩提寺でもあ

ります。あるお彼岸の頃、せつせと先々代のおばあ様が境内をお掃除されていました。
「ご精がでますね」と、ご挨拶すると「有難うございませう。今日は小田原からお殿様がお見えになるもので粗相があつてはいけませんよ」と、おっしゃったそうです。
何か今の時代とは違い、ほのぼのとした良き時代の名

残を感じました。
さて、世田谷で一番高い？ キャロットタワーも本年で築十八年になります。
さすがに、二十六階は高く、お天気の良い日には横浜レインボーブリッジや千葉方面までが見わたす事ができます。
二十年前にキャロットタワーの建つ前には商店が連なり、有数の商店街でした。
キャロットタワーとの入れ

替えの際に商店街は無くなり顔見知り商店も殆どが廃業し往年の街を知っている淋しさを感ずるの私だけではないと思えます。
さて、この投稿が発表される頃には暑い時期になるかも知れませんが、一度この太子堂



キャロットタワー

の町の歴史を散策して頂ければ幸いにぞんじます。

豪徳寺一丁目山下自治会は、小田急線豪徳寺駅の北側に位置しています。九〇〇世帯余りが加入しており、比較的小規模な自治会だと思つています。
本会は昭和二十四年「山下防犯協会」として設立され、会員の皆様が住みやすく暮らしやすい環境づくりを目指した活動を行っています。

合つていくのか、自治会の役割が以前にも増して大きくなつていくように思えます。
不測の災害に対して備える自衛防衛だけでなく、地域の高齢化や子供の健全育成など、地域として取り組む課題は多岐に亘ります。
しかしながら、やはり、これらの問題への対処としては、地域内の人々の絆を育んで行くことが基礎になると思っています。

同じ地域内に住む会員同士が知り合い、親睦を深めて互助の精神を育むためには、自治会の活動に皆様が楽しく参加出来る場を企画・提供する事が重要だと思つています。
当地域の入口に当たる豪徳寺駅前花壇の整備は、自治会の活動で、年に二回花の苗の植え替えを行っています。
この活動には国士舘大学の多数の学生さんが手伝いに来てくれており、若い力をお借りして、会員の皆さんと共に楽しく作業をしています。
おかげで花壇は自治会員の癒しの場となることも通行の皆様からも喜ばれています。
また、



駅前花壇花植え替え

山下商店街振興組合との共催で行つている「日帰り親睦バス旅行」も、いつもキャンセル待ちが出るほど盛況で、会員相互の親睦が図られており、会員の皆様には大変喜ば

れています。
その他にも毎年恒例となつた、エリア地域交流会では「切り絵」等の新たな企画を行い、高齢者だけでなく小さなお子さん達も楽しめるようになりました。
一方で、夏休みの朝のラジオ体操では、新たに「東北復興支援 お国言葉でラジオ体操」を取り入れ、お子さんだけでなく大人も高齢者も含めて多くの方が楽しんで参加して下さいました。
また、自治会員の皆様には防犯パトロールや緑道の清掃などのご協力をいただいております。
この活動も、地域内の人の繋がりに大きく貢献しているものと思われま

こんな自治活動の中で、最

玉川地域

# 「ゾーン30」の導入について

玉川町会 事務局長 中村輝之

玉川町会は「安全・安心の街づくり」を基本に防犯、防災、環境、子供達の健全育成を柱として活動をしており、従来から行政との関わりの中で防犯および防災には特に重点を置いて活動してまいりました。

平成二十三年の七月に二子玉川商店街振興組合が商店街の活性化を図るために人・車の流れについて季節別、曜日別、時間別の実態調査をいた

しました。私達はその調査結果から凶らずも街の生活道路における安全対策の脆弱性を思い知らされました。地域の特に狭い生活道路の安全対策にもっと力を入れていかなければならないことを痛感いたしました。地域の様々な方々の視点から自動車対策のみならず、人と自転車に関わる安全対策についても

玉川町会では下部組織である二子玉川交通環境浄化推進協議会の交通部会を中心に商店街の交通実態調査をしていただいた国士舘大学の寺内先生、成蹊大学（本年四月から日本大学）の稲垣先生を始め、多くのゼミの学生さんのお力をお借りして地域の生活道路における安全対策に取り組みしました。特に通り抜けの車が多い二子玉川小学校を取り囲む四丁目を中心に「ゾ

ン30」の交通規制の実施も視野に入れて交通の実態調査に当たりました。こうした調査の結果を地域の交通安全に十分に役立てなければなりません。そして何よりも大切なことは地域が一体となり他人事ではなく自分達の問題として取り組むことが必要だと認識を新たにしました。



ゾーン30 指定エリア

第一ステップとして、二子玉川小学校前通りの車両と歩行者・自転車の交通量の調査、ビデオ観測による歩行者と車両の詳しい動きの調査、通過車両の流れを調査するナンバープレート調査、走行速度の調査する車両速

近取り組み始めた新たな活動を二つほどご紹介致します。ひとつ目は、昨年度より独自の防災訓練を始めたことです。幼児を連れた家族や、高齢者の方々が、近所で声を掛け合っ



見守りあんしんシート

なく、いざと言う時のための役にたったと思われま

いざという時に誰が見ても、緊急時に必要な情報が分かるように冷蔵庫の壁面に貼れるマグネット式になつていま

さんを戸別に訪問することにより、今までになく、人の繋がりが増したものと思われま



ゾーン 30 看板絵柄

ことや、普段どの道をよく使っているのか、また、住民の方が速度規制の導入や安全運転の実践を前向きに捉えて下さっていることが分かりました。これらの調査結果は「ふたこたまご通信」としてまとめ、各戸への配布のほか回覧板や商店街の店先での配布など多くの住民の方に随時お知らせしました。

調査を始めてから二年の歳月がかりました。お陰さまで本年二月八日から玉川三丁目の一部と四丁目全域が「ゾーン30」に指定されました。東は二四六号から西は大蔵通り、南は水道道路から北は丸子川沿いの通りに囲まれた区域です。もちろん世田谷区では初めての導入で、全国的にも住民発意による極めてまれなケースとして注目されています。

この「ゾーン30」の30はクルマと歩行者が衝突した場合、衝突のスピードが時速三〇キロでは歩行者が致命傷を負う確率は約一〇%ですが、時速五〇キロでは約八五%と時速三〇キロを上回ると致命傷を迫る確率が急激に上昇します。この区域の生活道路はすべて全体の安全を図るため最高速度は時速三〇キロに制限されていますよという交通規制です。

事故がないことが一番ですが、小さなお子さんから高齢の方が安心して歩ける街にしたいという多くの地域住民の熱い思いが実を結びました。

さらに本年度は「ゾーン30」を地域の車を運転する皆さんに、また、この区域を通



商店街ゾーン 30 入口

り抜けする方にもご理解なラびにご協力いただけますよう啓蒙活動に積極的に取り組んでおります。また、本年から特に人・自転車に関わるルール・マナーの問題にも地域が一体となつて、じっくりと取り組んでいきたいと考えています。

するアンケートも実施いたしました。実態調査からは、普段なんとなく危険を感じている交通状況について客観的なデータに基づいて実態を明確に捉えることができませんでした。アンケートからは玉川地域の「ヒヤリ！ハット！マップ」の作成により小学生や高齢の方が街のいろいろな場所で危ない経験をしている

これらの結果をふまえ、車の通り抜け対策や街全体の速度規制の考え方の討議を重ね、警視庁が進める「ゾーン30」を土台に世田谷区玉川総合支所の街づくり課、玉川警察署ならびに警視庁の交通規制の関係者の皆様と連携しながら玉川の「道作り」を積極的に推進いたしました。「二子玉川安全安心ゾーン検討ワークショップ」も三回開

催いたし、多くの素晴らしいアイデアをいただきました。「ゾーン30」の補助標識につける絵柄の募集もワークショップのアイデアから生まれました。その他にも「子ども交通ワークショップ」や都立世田谷総合高校の生徒による「高校生自転車ワークショップ」等も開催いたしました。

例の役員会は、交通機関のストで、日中に都心部へ出かけていた何人も役員達が地元に戻れず、会議は定足数不足で流会、集まれた役員だけで当面の対応策や防災について話し合う機会になった。テレビから次々と流れてくる被災地の映像から強い衝撃を

砧 地域

# 成城自治会の災害対策活動

法人格成城自治会 会長 羽田 宏

取組みの動機(きっかけ)

二〇一一年三月の東日本大震災、今なお復興にはほど遠い被災された方々には改めて

哀悼の意とお見舞いを申し上げます。大津波、原発事故を始め、被害が大きい東北地方の苦難とは比べようもない

が、大災害発生は砧地域の私達にも衝撃的で、当日の出来事は忘れられない。当日夜に予定されていた月

受け、「防災対策を見直さねば」と誰もが感じていた。この「三・一一」以降「大災害発生時、公的機関は三日間動けない」という言葉が公然と語られるようになった。数年前から全世帯に配布されている「区の防災マップ」に書かれた説明も、熟読す

受け、「防災対策を見直さねば」と誰もが感じていた。この「三・一一」以降「大災害発生時、公的機関は三日間動けない」という言葉が公然と語られるようになった。数年前から全世帯に配布されている「区の防災マップ」に書かれた説明も、熟読す





標識掲示&顔合せ訓練

ると同様な一文が記載されている。地域の小中学校ごとの避難所運営訓練などは、区や消防等と協力して実施してきたが、発災直後の事は「行政との協働の場、会議等」でも「自治会の防災対策」もこれまで全く対応なしの空白部分であった。

阪神淡路大震災では救出された人の八〇%以上が「隣近所の人」に助けられたという。また、各種の講習会などで、救命救助は七十二時間（当初三日間）が勝負だと聞かされている。

公助に頼れない当初の三日間こそが一番大切で、たしかに避難所運営訓練等は有益で必要なことではあるが「命が助かってからの事」と気がついた。これが新たな災害対策の取り組みへのきつかけとなった。

活動の経過

(1) 準備期間  
二〇一二年五月、年度事業計画の重点項目として取り組むことが年次定期総会で決まり、その後、自治会役員の災害対策プロジェクトチームが結成された。具体的な運動展開の方法について検討が繰り返され、大災害発災時の安否確認をすばやく実行するための「赤色Ⅱ助けて」「緑色ⅡOK」の標識（小旗）を地区の全世帯約一万世帯に配布することを中心に据えたプログラムがまとめられた。

二〇一三年一月には文案が整理され「大切なお知らせ」と配布予告のチラシが出来上がり、「災害に負けないまち成城」「住民みんなで助け合うまちをつくろう」というスローガンや、「大災害発生時にも地域から一人の犠牲者も出さない」という活動目標も明確な言葉になった。また資金を賄うために、成城団地自治会とも協働して「成城地区自治会連合会」の事業として「平成二十五年度東京都地域の底力再生事業助成金」の申請をした。

三月十六日、第一回「災害発生時住民行動マニュアル説明会」は会場定員を超過する参加申し込みがあり九〇名が参加、急遽追加の説明会も設定することになった。

活動経過

(2) 二〇一三年度の主な活動  
四月、

① 第二回「災害発生時住民行動マニュアル説明会」開催  
② 東京都の助成認可決定  
五月、

③ 自治会の年次総会で、自治会未加入者の為にもかなり多額の費用を自治会が支出することの承認を得た。この運動は、未加入者も区別せず対象に含めて参加を呼びかける。大災害発生時における救命救助のための自助・共助の活動中に、自治会会員か未加入者かの区別はしてはならないとの共通認識を得た。

④ 各班の防災リーダー・サブリーダーの登録（自治会の回覧ルートをつかった）  
六月、

⑤ 第一回「防災リーダー顔合せ・説明会」は急遽成城学園に会場変更九九名が参加。  
七月、

⑥ 「安否確認標識」の製作、素材や仕様を変更し大幅なコストダウンを実現した。単価は一セット九〇円に圧縮できたが、それでも数が一万セット、九〇万円の出費である。  
八月、

⑦ 「安否確認標識」の全戸配布、猛暑の中で役員や防

災リーダー、協力者等が手分けしてポスティングに歩いた。（自力配布六一〇〇部、業者配布三七〇〇部）  
九月一日、  
⑧ 防災の日の標識掲示訓練の実施↓掲示世帯比率：約五％  
九月二十八日、  
⑨ 災害対策住民研修会（阪神淡路大震災VTR視聴と話し合い）も開催した。  
十一月、

各学校での避難所運営訓練（明正小、千歳小、砧中）が従来通り実施され、班ごとの顔合せ訓練の実施も少しずつ広がった。  
「行動マニュアル説明会（一般向け）」とリーダー向け説明会の毎月開催も続けられた。

十一月三十日、  
⑩ 成城自治会役員・参集本部（自治会館）立上げ訓練を実施し、班のリーダーにも協力を呼びかけ、報告来訪リーダー五十七名の参加が得られた。  
二〇一四年二月、第二



標識マニュアル

回住民研修会を開催し、「住民行動マニュアル改訂版」を再度全戸に配布、三月十一日にも「標識掲示訓練」を実施することにした。↓掲示世帯比率は約一〇%に向上した。

この運動はまだまだ道半ば「標識掲示率はたかだか一〇%程度」であるが、「さほど一〇%」でもある。対象が一万世帯なので、概ね一〇〇〇世帯の方が参加ということになる。この数は少なくともは多い。大災害発生時の力を発揮するものと思われる。

早いもので東日本大震災から満三年を経過、「七割の確率で三〇年以内にマグニチュード八クラスの首都直下型地震が発生する」との報道が絶え間なく流れているものの、人々の警戒心はやや薄れつつある。さまざまな課題も見えてきたが、今後も地道に継続し、運動を広げて行く必要がある。災害への備えは緩めることなく、着実に積み上げて行かなければならない。

# 町総連ニュース

◎松沢地区町会連合会会長交替のお知らせ  
平成26年6月10日現在

新会長	佐藤 一男
前会長	堀池 有

◎会長交替のおしらせ  
平成26年5月31日現在

地域	町会・自治会名	新会長・理事長	前会長・理事長
谷	太子堂下の谷町会	國分 秀高	佐藤キイ子
	下馬5丁目町会	佐藤啓太郎	高橋 伸
田	下馬6丁目町会	有光 逸郎	國分 純一
	上馬西町会	下山 芳男	田中 正和
世	上馬北部町会町会	平山 雅義	宇田川國一
	東北沢自治会	市川芙美子	菅野 憲興
北	赤堤4丁目町会	斯波 弘行	尾崎 新彌
	桜上水1丁目町会	佐藤 勲	堀池 有
川	等々力和敬会	宇田川博一	大平 恒雄
	等々力三和会	荒井 壽夫	高橋 勝義
	尾山台3丁目町会	山本 清爾	青木 成子
	中町4・5丁目町会	白井 進	粕谷 孝一
玉	馬事公苑前ハイム管理組合	鈴木 伸一	三島 紘一
	桜新町町会	小林 浩	二村 晶子
	祖師谷第5自治会	高橋 宏 (代行)	田中 忠良
砧	喜多見北部町会	諸戸 孜行	岡田 正雄
	法人格砧町自治会	河野 英樹	岩崎さよ子
	岡本自治会	荻野 長久	加賀美輝夫

◎町会総連合会情報誌編集委員会名簿  
平成26年5月31日現在

氏名	所属
会長代行 斎藤 重男	玉堤町会会長
委員長 堀池 有	桜上水1丁目町会会長
副委員長 堀江 義之	若林町会総務部長
委員 横山 昭夫	九品仏自治会会長
委員 鮎川 郁男	弦巻町会副会長
委員 飯塚 捷子	豪徳寺2丁目町会会長
委員 吉岡 靖之	藤自治会会長
委員 汐見 敏治	砧町会会長
委員 本橋 俊夫	粕谷会会長
委員 高橋 和夫	鳥山下町会会長

山		鳥	
都営鳥山アパート自治会	肥塚 龍介	鳥山北住宅自治会	永見美枝子
鳥山松葉通住宅自治会	山科 二郎	コートヒルズ久我山自治会	森 巖
給田北住宅自治会	片山 正和	鳥山北住宅自治会	渡邊 欣治
	岸田 シマ		香山 亘
	脇田 克子		石澤 達也



各町会・自治会でイラストをご自由にご利用ください。

## 編集後記

この度の町総連会長 宇田川國一氏の訃報に接し、編集員一同とても悲しんでおります。

前後藤会長の後任として職に就かれてまだ一年足らずであり、これからと云う時だっただけにとても残念に思います。編集委員会にご出席して色々と広報紙へのご意見等を頂き、今後の方向性などを指針してほしかったと思います。ご冥福をお祈りいたします。

各町会の皆様方、当分は現在の各地域の町会の活動の記事の掲載を続けて行く方向で進めていきます。世田谷区内の町会は一九六があり何年かかるか分かりませんが出来るだけ多くの町会の様子を知り、それぞれの町会で活用できる部分を利用して頂けたらと願っております。これからもご協力の程よろしくお願い致します。

編集委員

鮎川 郁男